



2026年 1月 8日 第2636回例会
1月第1例会

RI会長メッセージ：UNITE FOR GOOD
「よいことのために手を取りあおう」

本年度会長テーマ
「ロータリーの友情を育もう」

「職 業 奉 仕 月 間」

◆ 会長時間 ◆

小橋会長



新年あけましておめでとうございます。

今年の干支 午年は、エネルギーと行動力が高まる年とされています。午年の歴史を見るときに見逃せないのが「丙午（ひのえうま）の迷信」です。丙午は60年に一度巡ってきますが、直近の丙午は1966年「昭和41年」でした。この年に生まれた女の人は60歳になるわけですが、小泉今日子さん、鈴木保奈美さん、齊藤由貴さん、国生さゆりさん、有森裕子さん、小谷実可子さん、そして広島では、我が西RCの玉木ひろみさんと長尾美晴さんが有名です。

今年2026年は昭和100周年となります。その間、世界恐慌や第二次世界大戦の苦難を乗り越え、高度経済成長やバブル経済などの繁栄を経験しました。その一方で、日本は超高齢化社会に直面しています。団塊の世代が後期高齢者となり、人口の5人に1人が75歳以上になると予測される中、医療や介護体制、社会保障制度への負担が深刻化しています。昭和100年という時間の重みを感じ、時代の記憶を共有し、その意義を改めてかみしめながら未来に向けた新たな希望を育む年にしたいものです。

今年2026年が、皆様にとりまして、輝かしい1年になりますよう祈念いたします。

米山記念奨学会 米山功労者感謝状の伝達



第1回 玉木 ひろみ 君



第1回 柳原 邦典 君



第2回 部谷 俊雄 君



第2回 田島 慎也 君



第3回 香川 基吉 君



第3回 片山 恵太 君



第5回 坂田 恵希 君
(ピンバッジあり)



第9回 金本 善行 君

米山記念奨学会特別寄付金の累計額が
51,420,750円となりましたので、米山
功労クラブとして感謝状が届きました
(100万円毎 第51回)

● 委員会報告

* プログラム・出席委員会

出席報告 玉木委員長

本日(1月8日・木曜日)

会員数 93名 出席者 82名

欠席者 11名 ご来客 2名

ご来賓 0名 ゲスト 1名

計 85名

4週前の例会2025年11月27日・木曜日
出席率 100%



* 米山奨学委員会 熊本委員長

第2710地区米山学友会賛助会員のお願い

● 青少年交換派遣学生 月例報告書(1月分)

■ Jack Tyler Hampton

・近況等の報告

現在のホストファミリーでは、本当に素晴らしい時間を過ごしています。私と同年代で同じ学校に通う人たちと一緒に暮らせるのはとても助かります。ホストシスターの友達を通じて友達を作り、交流を深めることができました。

クリスマスや新年会などのイベントを通じて、直接のホストファミリー以外の人たちとも繋がることができました。こうした交流を通じて語学力が向上していると感じています。全体的に、現在のホストファミリーにはとても満足しています。

● 同好会報告

紫雀会 鈴木世話人

紫雀会12月例会は第3木曜日がクリスマス例会のため一週間繰り上げでの開催となりました。

2025年最後の麻雀は前半戦から圧倒的プラス点を打ち出した小橋会長が圧勝されました。2位は高田さん、3位は笠野君となりました。この日は勝ち負けに大きな差が出た1日となりました。

次回例会は来週1月15日第3木曜日午後6時よりいつもの麻雀マックでの開催となります。

● 紫友会

宍戸世話人



紫友会第6回例会は12月13日、広島ゴルフ俱楽部鈴が峰コースにて開催いたしました。当日はやや肌寒さを感じましたが、ラウンドには全く支障無く、気持ちよくプレーできました。

冬の鈴が峰特有の高速グリーンに多くの方が苦戦する中、見事優勝されたのは長谷川(行)君です。スコアはOUT49 IN54 H.C.34 ネット69。さらにシニア・グランドシニア・VFツアーアでも優勝され、4部門完全制覇という圧巻の成績でした。おめでとうございます！2位にはOUT37 IN37の田原君がベスグロとともに。3位には長谷川(剛)君、ブービー賞は中村(哲)君でした。

また皆さんにご好評いただいているVFツアーアは田川君が4,390万円で依然として独走中であり、2位との差は890万円と大きくなりドを広げています。

ラウンド終了後、場所をルッソクラブに移して忘年会を開催いたしました。終始和やかな雰囲気の中、ビンゴゲームやじゃんけん大会で大いに盛り上がり、来年への活力となる楽しい時間となりました。一方で、世話人の司会進行が不慣れであったことに加え、乾杯・中締めの段取り、さらに代表世話人の不在が重なり一部混乱が生じました事をお詫びいたします。

次回例会は明後日1月10日、広島ゴルフ俱楽部鈴が峰コースにて開催いたします。VFツアーアはユウベルクラシック。賞金総額は1億円越え。優勝賞金2,300万円となっております。

出場される皆さまのご健闘をお祈りいたします。

●会員記念日



1月お誕生日おめでとうございます。

(8名)

岡野君 石山君 荒谷君
金本君 菊地君 謙訪君
井原君 櫻段君



●スマイルボックス

SAA 長谷川(剛)委員長

●来訪の広島城南RC 幹事 高藤さん、レーミン
AINさん

広島城南RCの今年度幹事の高藤と今期入会
したレーミンAINです。

レーミンAINさんは2017-18年度の米山
奨学生として当クラブが世話クラブでした。
一度ベトナムに帰り、再び広島に来られ2023
年2月に広島市西区三篠町に外国人に特化した
人材紹介の会社を設立、そして先月当クラブに
入会いたしました。米山奨学生出身のロータ
リアンは広島では初めてのようです。まさしく、
日本との懸け橋になっている方だと思いま
す。

そして、来月ホストクラブとして開催する
IMは広島コンベンションホールとシェラトン
グランドホテル広島にて設営準備を進めてお
ります。是非ご参加ください。引き続きよろし
くお願ひいたします。

●山縣君（大枚）

年の瀬も大詰めを迎えた30日、次男 亮太が
入籍を発表しました。実際は少々前だったの
ですが、発表について何も聞かされていなかつ
た親は突然のことでの大変でした。香川(浩)副会
長からのLINEではじめて知ったような次第で
す。お相手は大学の後輩で川崎市在住の「女
性」で大変いい子です。

何はともあれ、大枚を出宝いたします。こ
れからもご指導のほど、よろしくお願ひいた
します。

●森脇君（大枚）

あけましておめでとうございます。

初詣で多数の参拝者がありました。約10万
人と警察が発表していました。

今年一年が良き年でありますことを祈念し
ています。

●古本君（自主申告・金一封）

昨年の12月13日(土)、平和記念公園「平和の
池」の清掃を総勢25名で行いました。

小橋会長、山縣幹事、世話人の前橋直前会
長と原君、ジャック君、インタークトの生徒
や先生とロータリーメンバーで、雨も心配され
ましたが無事に終了しました。

古本は読売新聞オンラインに写真とともに
掲載されました。喜んで出宝いたします。また、
その写真に写っているのは佐々木君と思
われます。

●斎藤君（自主申告・トリプル）

先日の家族同伴懇親会での福引きで、中村
(光)君ご提供の「グランピングリゾート大島
無料宿泊券」が当たりました。

昨年の夏、娘たち家族と一緒に宿泊して楽
しい時間を過ごしましたが、今回は夫婦二人
でゆっくりしたいと思っています。

●新年 全員出宝

改めまして、明けましておめでとうござい
ます。

新年を祝し、会員皆様のご健勝、ご多幸と、
広島西RCの更なる発展を祈念し、全員出宝を
お願ひいたします。

本年もよろしくお願ひいたします。

● スマンボックス

● SAA 長谷川（剛）君、浜田君、高島君

本日から席替えでしたが、皆さんのネームの裏の座席番号シールを貼り間違えてしまいました。大変申し訳ございませんでした。来週から正しい番号となります。



年男・年女放談

■卓 話



昭和29年生まれ
斎藤 昭一君

皆さん、明けましておめでとうございます。年男・年女放談のトップバッターを務めさせていただきます斎藤です。

私は昭和29年生まれの午年で、4月6日に満72歳になります。厚生労働省の令和6年簡易生命表によりますと、72歳男性の平均余命は14.14となっています。比較的信頼できるこの数字を参考にして今後の人生設計をするのがいいのかなと考えていますが、そうなると私の人生はすでに5分の4が過ぎていることになり少し寂しい気持ちになりますが、残り14年あまり86歳までを充実した人生にしなければと思っているところです。福田先生がいつかおっしゃっていましたが「今の時代はそう簡単に死ねないので、100歳まで生きる覚悟はしておいたほうが良い」ということなのですが、それは私が平均余命を過ぎて生きていれば考えたいと思っています。

新年早々少し変な話になりましたが、80年間戦争のない平和な日本に生まれ育ったからこそ今の幸せと長寿を享受できているのだと改めて感謝しています。ただ、年明けに世界の安全保障環境に影響を与えるような出来事が勃発しておりますが、日本はいかなる戦争や紛争にも決して巻き込まれないように舵取りをしっかりしていただくよう願うばかりです。

さて、私はロータリーに入会させていただいて3回目の年男を迎えておりますが、たまたまそれぞの年に会社の役職が変わるという節目を迎えております。振り返りますと、1回目の48歳で社長に就任、2回目の60歳・還暦で会長に就任、そして3回目の今回は昨年11月25日付で非常勤の取締役相談役に就任しております。50年近く会社に通い仕事第一の生活を送ってきましたので、非常勤になった今の生活にはまだ馴染んでおりませんが、時間に余裕ができましたのでこれまでできなかったことに挑戦してみたいと思っています。そんな第二の人生がスタートしてワクワクする気持ちでいっぱいですが、とりあえず今は終活の一環として住まいの整理や断捨離をしたり、また健康状態のチェックや体のメンテナンスを行ったりしているところです。

そして、ロータリーのほうは次年度 加藤会長年度の理事を仰せつかっておりますので、もうひと踏ん張りしようと思っています。そして、そのあとは平穏なロータリーライフが送れるようにそつとおいていただければ有難いですが、皆さんには引き続き楽しいお付き合いをしていただきますようお願い申し上げます。

以上、とりとめのない話で失礼しましたが、ご清聴いただきありがとうございました。

* * * * *



昭和41年生まれ
鈴木 義尚君

早いもので広島RCに入会しまして17年目となります、年男放談は初めての経験で、還暦の年となりました。

私は、昭和41年の丙午の年に 山口県山口市に生まれました。両親は洋菓子（ケーキ）をつくる仕事をしておりました。私は家業を継ぐつもりで、高校を卒業して商売の道に進もうと大学も商学部を目指して大学を受けました。

両親の勧めで、広島が良いのではということで広島の大学にすることにしましたが、これが私と広島のご縁となりました。大学時代は、山口で両親がレストランを経営しておりましたので、将来役に立つと思い、サンデーサンで社員のように4年間アルバイトをしておりました。大学時代は春休み・夏休みが長く、部活もしていない鈴木は時間を持て余し、掛け持ちのバイトとしてダスキンで空気清浄機の飛び込み販売のお手伝いをしていました。

その折に、他のバイトよりなぜか数字が出て歩合給も多くある営業の仕事が自分には向いているのではないかと思い直し、就職は、人生で一番高い買い物、住宅をオーダーでつくるセキスイの営業マンとなることになったのです。その時の同期の一人が次年度幹事の柴田君で、私の広島西RCの入会を勧めてくれました。

約6年間勤めた後に、現在のプルデンシャル生命保険から声をかけていただき、28歳で転職することとなりました。それから早いもので、入社32年となりました。

将来どうなるのか必死の30代。何を成し遂げたいのかを模索の40代。50代は時が経つうちにその一歩一歩が積み重なり、今の自分があることに気づいた歳となりました。

特に保険でも生命保険という仕事に出会えたことは私にとって大きな意味を持っています。おかげさまで現在700世帯、約100法人を担当させていただいております。担当のお客様に「安心」をご提供することがどれほど大切なことかを感じ、日々勉強を続けています。お客様の声に耳を傾け、時には一緒に悩みながら解決策を探ることが、私にとっても喜びとなり、やりがいとなっております。毎週のように、どなたかが入院されたり手術を受けられたりして、昨年は担当のお客様の死亡保険金を、ご病気や事故で8名お支払いす

ることが出来ました。ご家族や社員様、役員様の変わりはできませんが、お客様の一大事に経済的にご協力できればと思っております。

還暦という年齢を迎えて、決して後ろ向きになることなく、むしろこれから的人生を仕事を通してもっと楽しみ、さらにお役に立てるよう努めてまいります。年齢を重ねると体力的には若い頃のようにはいかない部分もありますが、経験と知識でカバーし、これまで以上にお客様一人一人に寄り添ったサービスをご提供できるよう努めます。60代の鈴木は、社内でもロータリー内でも鈴木のようになりたいと思ってもらえる存在であることが目標ですので、引き続き頑張ってまいります。

最後に、今ここにいらっしゃいます広島西RCの皆さんに感謝の気持ちを伝えさせていただき、これからも健康に気を付けながら毎日を大切に過ごしていきたいと思っています。そしてさらに多くの方々から感謝され喜ばれる仕事をしていくよう努力し続けます。

どうぞこれからも変わらぬご支援ご指導をよろしくお願ひいたします。



昭和41年生まれ
大植 伸君

前回の私の年男言いたい放談は、私の誕生から、広島西RC入会までの半生をダイジェストでお送りしました。今回はその続きをお伝えしたいと思うのですが、まず、前回までのあらすじをご紹介します。昭和41年6月大植伸誕生する。昭和45年、幼稚園の同級生に恋心を抱く。昭和48年、7科目でオール5を取り人生のピークを迎えるが、その後、下降の一途をたどる。中学、高校と鹿児島の男子校で寮生活を送り、東京の大学に進学。平成元年から5年までの5年間、司法試験に5回連続不合格。平成6年にやっと合格し、平成9年、弁護士登録、平成23年、歴史と伝統の広島西RCに入会。以上が前回までのあらすじです。

それ以降ですが、入会後、紫友会に入会し、2年続けて世話人をする。紫風会にも入り、日本酒好きになって肝機能が低下。平成29年度に、村上智亮執行部の副幹事を拝命。令和6年度、広島弁護士会の会長を務め、例会から足が遠のくが、令和7年の途中から、例会に本格復帰し、現在、懸命にリハビリ中。以上です。ご静聴ありがとうございました。



昭和41年生まれ
玉木ひろみ君

私が生まれた丙午という年は、昔から「丙午の女は気性が激しく、男を食い殺す」などと言われてきました。実際、1966年は出生数が極端に減った年もあります。「この年に生まれた娘は大変だ」「嫁のもらい手がなくなる」そんな迷信が、まことしやかに信じられていた時代でした。迷信とはいえ、それほどまでに人の心に影響を及ぼしたという事実は、無視できないものがあります。

なぜ、この迷信は生まれたのかについて調べてみると、丙午の迷信の背景には、江戸時代に語られた「八百屋お七」の物語があるとされています。

お七の家は天和2年の大火で焼け出され、お七は親とともに正仙院に避難しました。寺での避難生活のなかで、お七は寺小姓：生田庄之介と恋仲になります。やがて、店が建て直され、お七一家は寺を引き払ったが、お七の庄之介への想いは募るばかり。そこで、もう一度自宅が燃えれば、

また庄之介がいる寺で暮らすことができると考え、庄之介に会いたい一心で自宅に放火してしまいます。火はすぐに消し止められ、ボヤでとどまりましたが、お七は放火の罪で捕縛されて鈴ヶ森刑場で火あぶりにされました。

情熱的な恋の末に罪を犯し、命を落とした女性お七。その年が丙午であったことから、「情の激しい女性=丙午」という印象が結び付けられました。そして、八百屋お七の物語は、井原西鶴の『好色五人女』に取り上げられたことで広く知られるようになりました、現代では、歌手：坂本冬美の「夜桜お七」で歌われています。

ここで注目すべきは、なぜ“女性の激しさ”だけが、これほど強く戒めとして語られたのかという点です。当時の社会において、女性は控えめであること、従順であることを求められていました。その枠を越える存在は、不安や警戒の対象となり、語り継がれていったのではないかと思います。

今でも、私が丙午生まれであることを話題にすると、男性の方々には、「それで強いのか…」との反応を楽しんでいる自分がいます。



●卓話予告

日 時	テ　ー　マ
1/22(木)	「広島のまちづくりの現状」 津村 昌史 君

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会長 小橋 敏幸
幹事 山縣 浩一

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail : hwrc@godorc.gr.jp
作成・会報雑誌・広報委員会

広島西RC **検索**